しまね教育魅力化ビジョン「ふるさと島根を学びの原点に　未来にはばたく　心豊かな人づくり」
学び続ける教職員の育成と校内の OJT を支援する教育センター

センターだより

令和４年３月　第 132 号

島根県教育センター
https://www.pref.shimane.lg.jp/matsue_ec/
島根県教育センター浜田教育センター
https://www.pref.shimane.lg.jp/education/kyoiku/kikan/hamada_ec/

「守破離」と「アンラーニング」

最近読んだ記事の中に、「教職員のプロトタイプ」として以下のような趣旨の内容が記載されていた。

「仕事に対しては真面目だが、組織的な動きは好まず、個人プレーが多い」「自分がいいと思うと変えることを拒み、新しいことを取り入れることには抵抗する」「仕事を増やすのは得意だが、減らすのは苦手」「慣れ親しんだワープロソフトを好んで使い、なんでも紙に印刷し、生産性の概念がない」「ワーク・ライフ・バランスどころか、仕事と私生活が混ざっている」（「内外教育」R3.11.30 による）。要するに、教職員にありがちな思考・行動パターン、といったところであろうか。あまりにも思い当たることの多かった自分は、記事を読みながら深く恥じ入った次第である。

と同時に、この記事は深い示唆も与えてくれた。例えば、最初の指摘はカリキュラム・マネジメント、次の指摘は授業改善につながっていく話であろう。そして、残りの三つは働き方改革が求められる理由を的確に示している。今日指摘されている教育課題の多くはこうした「プロトタイプ」が意識の根幹にあることに改めて気付かされる。

さて、「守破離」という考え方がある。意味は以下の通りである。

> 剣道や茶道で、修業上の段階を示したもの。守は、師や流派の独自な教え、型、技を確実に身につける段階、破は、他の師や流派の教えについて考え、良いもの、望んでいる方向へと発展する段階、離は、一つの流派から離れて、独自の新しいものを確立する段階。　（「日本国語大辞典〈第二版〉」より）

元々は、千利休の言葉から派生したものであると言われており、解釈も様々あるようだが、物事を習得する際には多かれ少なかれこのプロセスをたどることは間違いないのではないだろうか。そして、教職員の業務も守破離の考え方と類似する点が多くあるように思われる。初任の頃は、先輩から教科指導や学級経営の手法などについて様々なことを教わりながら、教職員としての基礎を固めていく。そして、その人なりの理想を求めて経験値を積み重ねていき、ベテランの領域に入っていく…というイメージである。ベテラン教職員の多くがプライドを持ちながら独自の教育スタイルを貫いているように感じられるのも、「離」の境地に入っているからと考えると納得がいく。

ただ、昨今の教育を取り巻く状況、例えば、ＩＣＴ機器の導入・リモート授業・新学習指導要領（特に評価）への対応・教員免許更新制の発展的解消などは、今までの経験値だけでは対応することが困難なレベルの変化であり、「離」の境地だけで乗り切っていこうとするのは厳しいと思われる。

それではどうするか。先日「アンラーニング」という考え方があるということを知った。これは「学習棄却」「学びほぐし」とも呼ばれており、時代に合わなくなった知識や価値観を捨て去り、新しく学び直すこと、とされている。ただ、今まで積み上げてきた経験値は、成功体験に裏打ちされているがゆえに、捨て去るのは簡単なことではないし、そもそも新しいことを学び直す余裕がない、というのがホンネのところであろう。

冒頭の「プロトタイプ」はすべてがいけないわけではないが、こうした発想では変化に対応していくことが難しいということである。まずは、この意識を変えるべく、自分スタイルを囲っている「離」の壁を少しずつ崩してみることが必要なのではないだろうか。今回、この拙稿を書くのに自戒の意味を込めて、使い慣れたタロウ君を捨て去り、タブレットを使用してみた。これもほんのささやかな「アンラーニング」と言えるかもしれない。

ベテランの皆さん、まずはこんなところからもう一度「守」を始めてみませんか。

（教育企画部長　岡　秀樹）

令和３年度　教職経験年数に応じた研修の教育センター研修が終わりました。

（第Ⅴ回初任者研修の様子）

新型コロナウイルス感染症拡大が全国的に猛威を振るい、１月 27 日より、初めて島根県にもまん延防止等重点措置が適用されました。学校現場においては、様々な感染症対策を講じながら、子どもたちの学びを止めない工夫をなされたことと思います。当教育センターにおける教職員研修においても、受講される先生方のご協力のもと、集合型からオンラインによる研修に切り替える等して、最後まで研修を実施することができました。１年間、研修実施につきまして、ご理解とご協力をいただきありがとうございました。

『新任教職員研修』教育センター研修　閉講

令和３年度島根県新任教職員研修教育センター研修が閉講しました。年度半ばまでは、感染症対策を講じながら集合型の研修を実施できましたが、感染症拡大を受け、後半はオンライン研修に切り替えての実施となりました。

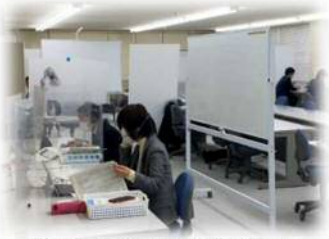
最後の教育センター研修では、画面越しではありましたが、同期との久しぶりの再会を喜んでいる受講者の様子がうかがえました。研修中は、新たな学びを得るだけでなく、ブレイクアウトルームを活用した協議演習を通して、１年間の実践を振り返りながら、成果と課題について確認することができました。

各学校におかれましては、管理職や指導教員の先生方を中心に、学校全体で温かく新規採用者を支えていただきました。２年目からは、この１年間の学びを糧に、島根県の教職員として一層頑張っていかれることと思います。これからの益々のご活躍を祈念しています。

以下受講者の感想です。

- 一年目という同じ境遇の先生方とお会いできる時間が楽しく、また励みになりました。また、様々な講義を受講することで、各分野の知識を得たり、今後の自身の授業や学級経営の見通しをもったりできました。センター研修で学んだ基礎基本を大切にしながら、今後も自分の色を生かして子どもたちと関わっていきたいと思いました。
- 校内研修とは違い新鮮な気持ちで研修に臨むことができた。今後の教員生活で困難に遭遇することもあると思うが、その時は原点に返り自身に負けないよう前進していきたい。

教職経験6年目研修教育センター研修　閉講


（第Ⅳ回６年目研修の様子）

２月３日、４日に浜田教育センターにて、９日、10 日に島根県教育センターにて教職経験６年目研修教育センター研修最終回を行いました。今回は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からオンラインでの研修に実施形態を変更しました。内容は「人権教育」「授業づくり」「職務研修」等について研修を行いました。教諭の「授業づくり」では各校で受講者を中心としたチームで進めた課題研究について、成果と課題等について発表、協議し、新たな課題を見つけるなど互いにとって学びの多い時間になりました。また、最後の「キャリアステージの展望」では、教職経験６年目である「探究・発展」期の育成指標を見ながら、自分の成長や課題についてまとめ、チャット機能を使って記入した画面を受講者同士で共有し、これからの展望について考えることができました。１年間を振り返った感想を紹介します。

- ６年目研修は自身の授業力や生徒・同僚と関わる力を見直し、高めるために必要な時間でした。初任からここまでたくさんの失敗をしながらなんとか教員生活を送っていましたが、この機会がなければ現状に満足し進歩がなかったと思います。現在は「学び続けなければならない」から「学び続けたい」というマインドに変化しています。

最後に、このように新しい形態での研修を行うことで、学び続ける教職員を支え、実りある研修となるよう努めていきますので、ご協力をよろしくお願いします。

児童生徒へのていねいな実態把握から見えてくる支援

今年度の特別支援教育の能力開発研修２講座は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、当初の計画から実施形態や会場を変更して開催しました。来所とオンライン受講の併用での開催となりましたが、多数の方にご参加いただきました。

［1215］特別支援教育専門講座

～読み書きに困難さのある子どもの理解と支援～

9/9（木）島根県教育センター

島根県教育センター浜田教育センター

今年度の「特別支援教育専門講座」は～読み書きに困難さのある子どもの理解と支援～をテーマに行いました。

廿日市市教育委員会特別支援教育アドバイザーの山田充氏を講師に、講義と演習を行っていただきました。午前中は、読み書き障がい、書字障がいの特徴、基礎的な理論についてご説明いただくとともに、アセスメントをしっかりと行い、背景要因を考えることの重要性についてお話をいただきました。午後は、具体的な指導内容、アセスメントの方法、そこからどのような要因が読み取れるか等、演習を交えながら説明がありました。

アセスメントを丁寧に行い、そこから支援を始めていくことで、児童生徒の成功体験を増やしていく、実態に合った支援を進めていくことで、課題の解決が見えてくるということでした。年齢段階によっては、そういった支援だけではなく、違ったアプローチを検討していくことも必要になってくると思います。

［1068］児童理解と支援講座

～子どもの願いに寄り添うための教師の基本姿勢～

10/1（金）島根県教育センター

島根県教育センター浜田教育センター

大阪医科薬科大学 LD センターオプトメトリストの奥村智人氏を講師に、～通常の学級等における読み書きにおける特別な支援を必要とする子どもの困難さの理解と支援について～をテーマにお話しいただきました。

見えている困難さが同じでもその背景にある原因は子ども一人一人異なっているということから、実態把握の重要性についてお話しいただきました。また、演習を取り入れながら、実態把握をする際の見る視点や支援方法、関連動画などたくさんの情報も示していただきました。

小・中・義務教育学校・高・特別支援学校の各校種の教職員の方々にご参加いただき、受講者のみなさんには、それぞれの立場に合わせて考えていただくことができました。途中でチャットによる質問タイムも設け、合理的配慮などについても共有することができました。

（研修の様子）

島根県教育センター研究・情報スタッフより

令和３年度 長期研修員 ～研修成果中間発表会(オンデマンド配信)～

島根県教育センター長期研修員の研修成果中間発表会をオンデマンド配信で行いました。この会は、４月から開始した研修について、これまでの取組や成果、今後の展望を発表するものです。視聴者（参加者）からは、Web アンケートを利用して、研修テーマ設定の背景や具体的な実践内容について等、多くの質問や意見をいただきました。今後、研修成果をまとめた「研修報告」を発刊します。１年間の研修の成果の波及を期待しています。研修を進めるに際して、研修員の所属校の皆様をはじめ、研修協力校、関係教育機関の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。

令和４年度 島根県教育センター 教育研究発表会のお知らせ

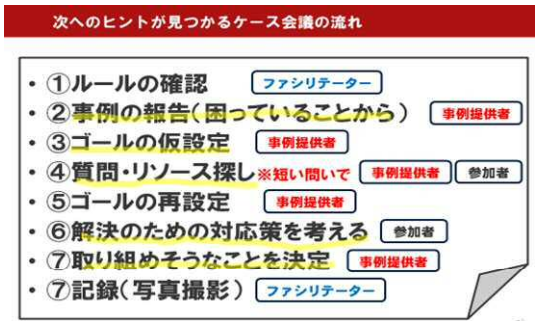
教育センターでは、教職員の皆様の参考になり、教育課題の解決の一助となることを目指し、調査・研究活動に取り組んでいます。この研究の成果を発信する場として、「しまね教育センター発　よりよい社会と未来に向けた教育～ICT を使うことが日常風景になる今とこれからの教育～」というテーマで令和４年度教育研究発表会を予定しています。これらの内容が、各校の教育実践の充実につながることを切に願っています。

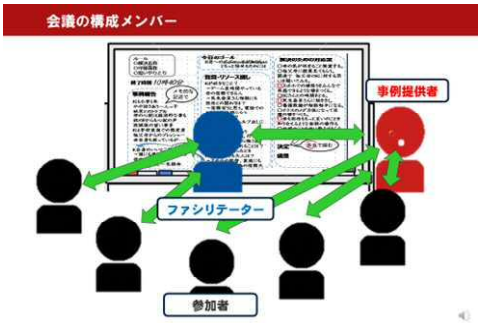
島根県教育センター教育研究発表会【オンライン開催】
《第１部》【オンデマンド配信】　研究・研修成果発表 配信期間　５月１３日（金）～５月３１日（火） 指導主事（共同・個人）の研究発表、長期研修員の研修成果発表
《第２部》【オンライン配信】　実践紹介・講演 開催日時　５月２１日（土）13：30～16：00（予定） ［実践紹介］　県内の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校より ［講演講師］　豊福晋平氏（国際大学グローバル・コミュニケーションセンター主幹研究員） 今度珠美氏（国際大学グローバル・コミュニケーションセンター客員研究員）

【浜田教育センター教育相談スタッフ　共同研究】

学校現場を支える教育センターの役割 -「ケース」支援を通じて-

教育相談スタッフでは、平成 31 年度（令和元年度）より標題の共同研究に取り組んできました。短時間で実施でき、解決に向けたケース会議として、**「次へのヒントが見つかるケース会議」**を学校へ提案します。ポイントに沿ったケース会議の運営を研究し、実際に学校で使えるパッケージを提供することにより、学校の実践を支援することを目的としたものです。現在、このパッケージを HP にアップできるよう最終調整をしているところです。





パッケージには、「（10 分間でポイントが分かる）事前視聴動画」、「（会議手順が分かる）進行シナリオ」等を収容しています。手軽に活用していただける形でのデータ提供を予定しているところです。「短時間化」や「省力化」という視点だけでなく、「解決に向けた会議」をつくるという意味でも、この「次へのヒントが見つかるケース会議」は、学校現場で起こる事象に向き合っている教職員集団が前に進む一歩を考えていく一つの手段になり得るのではないかと考えています。ぜひご活用ください。